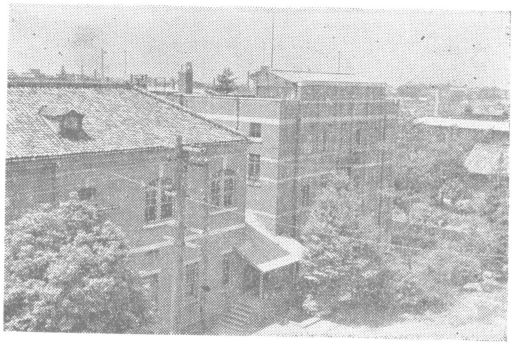
地方だより

×…京都大学…×

観光客の数では日本一の京都，大抵の人が修学旅行で訪れる京の名所については今更述べる必要はないでしょう．清水寺や平安神宮を済ませて鴨川の東，東山を間近に眺める東大路を北上して来る観光バスの客は右の窓外に京大の時計台を教えられることでしょう．

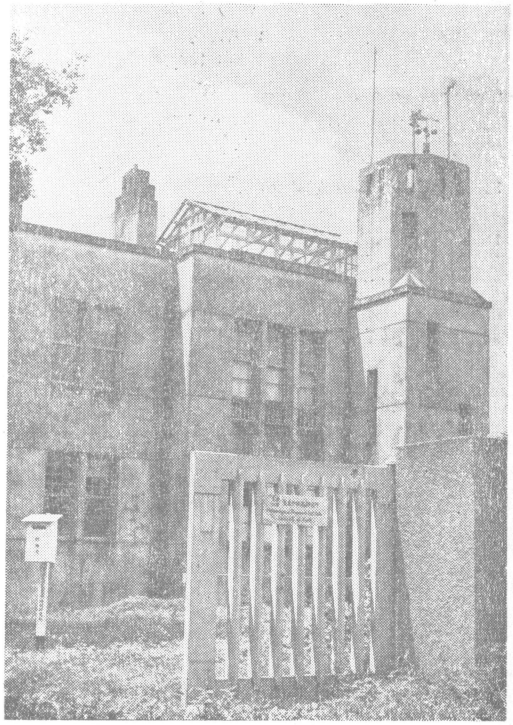
その時注意して見ればもう少し電車道寄りに3階建で屋上にガラス張りの部屋を持つ我が地球物理学教室に気付かれる筈です．これが，今から30数年前，地震学の泰斗故志田順教授によって，日本で最初につくられた地球物理学教室なのです．この建物の3階に気象学研究室があります．建物自体はとても立派とは申せませんが(尤も2・3年中には新しい建物が出来ることになっています



京都市左京区吉田本町　京都大学理学部
地球物理学教室　　(撮影光田)

が)，屋上の景色は素晴らしく春は緑・紅，色とりどりに，秋は紅葉夕日に映ゆる東山三十六峰を眺めてはしばし頭を休めております．このような静かな環境に恵まれて滑川忠夫教授の指導の下に異色ある伝統を受けついで毎年卒業して行った研究者は，既に数十名に達しています．そして現在この部屋には主としてシノプチックな分野の研究を行っている10名足らずのメンバーがおり，伝統ある台風の研究や豪雨・低気圧・大循環等色々の方面の研究を行っています．その為に週3回の討論会の他月2回位は大阪管区気象台や京都測候所其の他近くの大学の人達と合同の研究会が開かれています．

我々の研究室はこの教室の他に，附属の気象学特別研究所を持っています．有名な葵祭の行列は京都御所を朝出発し下鴨神社で昼休みをした後，京都市外の北端上賀茂神社に向って鴨の河原を昔乍らの老松の間を見えかくれしながら進んで行く際が最も趣が深いといわれていますが，我々の研究所はその対岸にあって絶好の桟敷をなしています．これは広大な京都の植物園の一劃にあり，種々な植物環境と気象との関係を調べるために大正十五年に設置されたものであり，当時今のように一般に盛でなかった微細気象学の研究がここで育って来たのです．現在ここにも数名の微細気象班と名付けられている若い研究員が研究を続けています．風速・気温・日射・水張等を電気的に記録する所謂「高須式6点同時記録装置」を中心武器として，その他数組の簡易気象観測器具をそろえて夏は焼けつく砂丘の上冬は雪の上と特異な環境を求めて飛び歩いています．なおここでは普通の定時観測も行っており，又志田式40倍微圧計が据付けられています．気圧微変動の研究も我々の研究室の伝統的なものの一つですが，最近米国水爆実験による気圧波を日本で最初にキャッチし得たのもこの研究の副産物の一つです．このような気象学の広汎な分野にわたる我々の研究成果



京都市左京区下鴨西半木町旧植物園北西隅
京都大学理学部気象学特別研究所
(撮影佐橋)

は "Meteorological Notes of the Meteorological Research Institute, Kyoto University" にまとめられて世界中に送られています．(中島記)